年頭のご挨拶

明けましておめでとうございます。
旧年中は大変お世話になりました。本年も宜しくお願い申し上げます。

昨年はコロナ禍が続く中、ウィズコロナの生活・活動様式の定着に伴い、経済活動も正常化してまいりました。これまで落ち込みの大きかった業界でも反転の傾向が強まりつつあります。世界全体での地政学リスクの高まりやインフレなどの懸念要因はありますが、新年も国内経済の回復が続くとの見方が大勢を占めています。JCR の 22 年の居住者の長期格付を見ても、10 年連続で格上げが格下げを上回り、格上げ、見通しの上方への変更が増加しました。格付の見通しがポジティブとなっている発行体が多いことなどから、新年も同様の動きが見込まれ、企業の業績や財務の健全性は改善が続くと見られます。

22 年の社債市場では、金利などの調達環境を勘案し社債調達を抑制する企業が目立つ一方、ESG 債に分類される社債の発行は堅調で、ESG に対する投資家の高い関心が伺えました。JCR は、信用格付、サステナブル・ファイナンス評価の両面で、こうした格付利用者のニーズに対応してまいりました。中でも、信用格付の分野では、一昨年から提供を開始した、ESG 要素が信用格付に与える影響を説明するレポート「ESG クレジットアウトルック」の充実・普及に努めています。また、サステナブル・ファイナンス評価では、ポジティブインパクトファイナンスをはじめ、資金使途不特定型の調達やローンへの評価も継続的に強化しています。ブルーファイナンス評価など新たな評価手法の整備も進めました。グローバル化においても、アジア格付機関連合（ACRAA）の会長会社として、各国格付機関とのネットワークの中でイニシアティブをとりながら、ESG／サステナブル・ファイナンスに関する情報交換などに取り組んでいます。

今後、国内外の環境・情勢変化のスピードは、ますます加速していくものと思われます。JCR はこうした変化に的確に対応し、精緻な分析、明確・迅速・タイムリーな情報発信をはじめ時宜を得た活動を展開します。これからも「最も信頼・利用される」「グローバルに貢献する」格付・評価機関を目指し、金融市場を通じて社会経済活動にしっかりと貢献してまいります。

本年も引き続き、JCR を宜しくお願い申し上げます。

2023 年 1 月 1 日

株式会社日本格付研究所　代表取締役社長

髙木　祥吉

JCR 株式会社日本格付研究所
Japan Credit Rating Agency,Ltd.